駒澤大学駒澤会創立40周年記念誌

# 駒澤会のあゆみ

駒澤大学
駒澤会

# 駒澤会のあゆみ　目次


駒澤会創立４０周年を迎えて
駒澤会会長　井 上 俊 夫　1

学生支援の絆に感謝
学校法人駒澤大学理事長　須 川 法 昭　2

駒澤会の４０周年を祝す
駒澤大学総長・駒澤会名誉会長　田 中 良 昭　3

月に瑩（みが）き雲に耕す　駒澤会創立４０周年によせて
駒澤大学学長・駒澤会名誉副会長　石 井 清 純　4

駒澤大学教育後援会の遺伝子
駒澤大学教育後援会会長　松 浦 雅 人　5

駒澤大学駒澤会４０周年を祝して
駒澤大学同窓会会長　越 後 宏 允　6

駒澤会４０周年をお祝いして
駒澤会相談役　磯 田　　昭　7

駒澤会の成り立ち
駒澤会顧問　高 見 静 子　8

駒澤会奨学金／奨学金授与式を取材して
駒澤会広報部副部長　荒 井 喜久子　9

駒澤会の奨学金を受給して
GMS 学部 GM 学科２年　金 澤 碧 依　10

駒澤会の奨学金を受給して
経済学部現代応用経済学科３年　藤 井　　恵　11

駒澤会奨学生として
経営学部市場戦略学科４年　湯 浅 宏 仁　12

駒澤会のあゆみ　その１（創立２０～３０年）　13

駒澤会のあゆみ　その２（創立３１～４０年）　15

駒澤会の思い出
駒澤会副会長　赤 堀 菊 絵　18

心に残った思い出の人
駒澤会　玉 田 武 子　19

駒澤会の思い出
駒澤会　吉 田　　瑛　22

駒澤会創立４０周年記念祝賀会報告
駒澤会副会長　田 中 隆 一　23

創立２０年から４０年駒澤会会長・副会長・監査一覧　25

創立２０年から４０年大学当局／駒澤会担当部長・事務局一覧　26

「駒澤会奨学金基金」へのご寄付のお願い　27

４０周年記念事業を終えて
駒澤会４０周年記念事業実行委員会委員長　森 屋 正 治　28


『表紙の花』
スイートバジルは、駒澤会創立記念日10月15日の誕生花です。小さいけれど純白の花は駒澤会会員のピュアな気持ちを表していると思います。花言葉は「良い望み、好意、好感」です。

# 駒澤会創立４０周年を迎えて

駒澤会会長　井上　俊夫

駒澤大学駒澤会は創立４０周年。「四十歳而不惑」と論語にもあるように、まどわない安定感を思わせる長い年数になります。

当会は昭和４６年（１９７１年）３月卒業の父兄会ＯＢ有志の方々が、子弟卒業後も相互の親睦を図りつつ、大学の発展興隆のため奨学制度を通じ、寄与していきたいとの念願から結成した父兄ＯＢ会の７１会が源流です。その後、多くの卒業生父兄の賛同を得て、駒澤大学９０周年記念事業の一環として昭和４６年１０月に発足しました。以来、多くの会員の皆様、大学の教職員の皆様からの多大なるご支援・ご協力を賜り、今日を迎える事が出来ました。諸先輩のご苦労とご努力に深く感謝申し上げます。

さて当会が、現在まで約１，０００名の学生に奨学金を支給し続けられている事は、初代会長の曹洞宗審事院長 黒田白純師、事務局長の大学の学監（現在の副学長）藤田俊訓先生を始め、役員の皆様の多大な努力が実を結んでいるものと思います。「２０周年記念誌、駒澤会のあゆみ」によると発足当初の目標は、大学の「奨学金制度」の確立に向かって最大の援助を行うとしており、大本山永平寺、大本山総持寺、曹洞宗の主な寺院から多額の篤志寄付をお願いして、奨学金制度が実施されました。後を引き継いだ私たちはそのご苦労を肝に銘じて、奨学金を支給し続けると共に、同窓会・教育後援会と協力して大学の発展に尽くして行くべきだと思っております。

一般的に４０年よりも５０年を大切にする慣行がありますが、当会は３０周年を記念する事業を行っておりませんので、本年は祝賀の色彩を持った記念行事は行わず、２０年間の隔たりを繋ぐことになりました。後々の人々に先輩たちから受け継いだ歩みを伝える事を目的として、今日までの活動経過を主に資料集めを行いました。本誌が後のちの参考になればと思います。

結びにあたり、会の運営に皆様の一層のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。今後、駒澤会が５０年・６０年と繋がって益々発展して行きます事を祈念してご挨拶と致します。

# 学生支援の絆に感謝

学校法人駒澤大学理事長　須川　法昭

駒澤会会員各位には、普段から駒澤大学の学生に対して心温まる御支援を賜りありがたく感謝申し上げます。また井上会長を中心として会の運営活動にあたっていただいております役員をはじめご協力、ご支援いただいております会員の皆様にこの場をお借りし厚く御礼を申し上げる次第です。私事、前佐々木理事長退任にあたり昨年１０月２０日本学理事会にて、皆様のご推輓をいただき前理事長残任期間であります平成２６年３月まで本学理事長として就任することとなりました。前理事長は本学の資産運用に伴う損失問題の解決に向け、具体的改善施策の実現、また健全な組織の運営と財政の構築等を目指し大変ご努力を頂きました。新理事長といたしましても大学関係者各位のお力添えを頂きながら浅学非才でありますが前佐々木理事長のご意思を継いで母校の運営に粉骨砕身努力致したいと考えております。

このたびの東北地方太平洋沖地震は、国の試算では損害額１６兆円から２５兆円とされ、且つ行方不明者・死亡者を含め２万７千人を超え、今なお避難生活を強いられておられる被災者の皆様にはお見舞いを申し上げるとともに一刻も早く通常の生活に戻られるようにご支援を申し上げたいと存じます。また、被災地に保護者をもつ本学学生・被害学生に対し、学長、副学長をはじめとして学内の教職員のご協力により被災学生の学習意欲に応えうるべく本学独自の「被害学生支援基金」を設けその対応を計っていただいているところでございます。その支援にも限度がございますし、また対象者がどの程度になるかもまだつかめてない状況であり、その後の対応も考えて、十分とはいきませんが対象学生の学習機会を失わすことのないよう対処いたしたいと考えております。そういう意味で、駒澤会の活動としていただいている奨学制度は今後も多くの学生たちの励ましになるものと思います。

国難とも言える今回の大災害の復旧復興には経済の問題を抜きにして考えられませんし、大災害が起きた時は政府も、個人もその復興復旧の資金調達に苦慮することは明らかでありますから、ますます今後の私学運営は厳しいものとならざるを得ない状況と推測されます。当局といたしましては、この状況下において、少子化と、新たな社会的要請に応え得る教育改革を実現し、大学間の競争を勝ち抜いていかなければなりません。そこで、駒澤大学では、大学が抱える課題を今一度整理し、喫緊必要な施策を体系化し、取り巻く環境変化を踏まえ、長期計画を策定し努力致しておるところでございます。

さて、駒澤会は、今年の１０月で発足４０周年を迎えました。永い間、継続してご支援を頂戴致しておりますこと頭の下がる思いであります。また、執行部・顧問・関係者の皆様には、大変お忙しい中、物心両面にわたり４０周年に向けてご尽力をいただきましたことに深く感謝申し上げるしだいでございます。わたくしたちも、駒澤会の皆様の恩に報いるべく教職員一丸となって大学発展のため努力致す所存でございます。重ねてになりますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

# 駒澤会の４０周年を祝す

駒澤大学総長・駒澤会名誉会長　田中　良昭

駒澤会４０周年、誠におめでとうございます。駒澤会が昭和４６年（１９７１年）１０月１５日に発足してより、今年はちょうど４０周年を迎えられ、記念誌を発行されることは誠に意義深いことと思います。

駒澤会は、駒澤大学の教育後援会（当時は父兄会）の役員を勤められ、ご子女の卒業後も本学とのご縁を大切にされ、大学の発展のために物心両面から様々な後援をしていこうという高邁な志を抱かれた人びとによって設立された会であります。すなわちその主要な事業のひとつが、学生の学業奨励のための奨学金支給事業であり、学生一人に２０万円の奨学金を毎年２５人に支給していただいており、結果的に年間５００万円の資金を大学のために提供していただいているのです。そしてこの奨学金の恩恵に浴した学生の数も、今年でほぼ１０００人に達するということであり、このような意義深い活動を継続して実施してこられたことに対し、心からの敬意と謝意を表する次第です。

私事で恐縮ですが、私も本学の仏教学部に在学した４年間とその後大学院仏教学専攻の修士と後期博士の両課程で学んだ５年間は、当時の日本育英会（現在は独立行政法人　日本学生支援機構）の奨学生に採用していただき、奨学金の貸与を受けて勉強させていただきました。この内大学４年間の貸与分については、大学院在学中の５年間の返還猶予を経て、本学教員に就任後全額を分納にて返還しましたが、大学院での５年間の貸与分については、その３倍に当たる１５年間の教員としての勤務の後、教育職員に対する返還免除の特例によって免除され、結果的に給付と同じ扱いをしていただきました。そのような次第で奨学金の恩恵をもっとも多くいただいた一人として、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。学生時代には少しでも親の負担を軽減したいと思う気持ちは、昔も今も変わることはありません。そうした学生たちの率直な願いにこたえるためにも、駒澤会の奨学制度が今後共継続されることを念じてやみません。

駒澤会はそうした活動以外にも、会員相互の親睦や研修のための様ざまな事業が企画されています。昨年秋の永平寺一泊研修会には、その後の福井県三国海岸望洋楼での研修親睦会にお招きをいただき、禅の話と懇親の集いに参加する機会が与えられ、会員の心暖まる歓迎に敬服いたしました。

益々のご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 月に瑩（みが）き雲に耕す
## 駒澤会創立４０周年によせて

駒澤大学学長・駒澤会名誉副会長　石井　清純

駒澤会創設４０周年、おめでとうございます。

駒澤会には、いつも本学の学生たちにお心配りをいただき、感謝いたしております。とりわけ本年は、長引く経済不況に東日本大震災による混乱が加わる中で、変わらぬご厚情をいただけたことは、学生にとっても本当に大きな支えとなっております。

このような突発的な災害に限らず、この４０年間、大きな社会変動が次々起こり、また学生の気質も変化してまいりました。そのひとつひとつに柔軟に対応しご支援を継続していただくには、多くのご苦労があったことと拝察いたします。

いま、その活動の一端を拝見するにつけ、それが道元禅師の「瑩月耕雲（月に瑩き雲に耕す）」という言葉にぴたりと当てはまるように思えてなりません。

これは、道元禅師が追慕して止まない宏智正覚の「耕雲種月（雲に耕し月に種（う）える）」にもとづいた表現です。道元禅師が越前に入られたときに詠まれた「山居」と題する偈頌（漢詩）の中に見えており、『永平広録』巻十に収録されています。

一般には「釣月耕雲（月に釣り雲に耕す）」として知られていますが、それは江戸時代の改作であって、古型は「瑩」でした。一方、「耕雲」の二文字は、駒沢キャンパスの「耕雲館」(禅文化歴史博物館)に採られていますので、すでにご存じの方も多いかと思います。

意味するところは、「日々の生業の中で、古より伝わる確かな道を常に念頭に置き、自らが道を踏み外していないかを確認し続ける」こと。道元禅師が、釈尊から伝わる「正伝の仏法」の復興と存続のために実践された、たゆまぬ活動を表現したものなのです。

道元禅師の仏法は、この継続性に真髄があると言っても過言ではないでしょう。しかし、それはけっして一つのあり方に固執した頑ななものではありませんでした。それは何より、道元禅師が新天地を求め、京都から越前へと移った、まさにその時にこの「耕雲種月」の句が詠じられたものであることに、象徴的に示されているといえるでしょう。

貴会におかれましても、４０年間の活動の継続は、まさに道元禅師と同じ工夫の積み重ねであったものと拝察いたします。これからも、さらに闊達なご活動が展開されますよう心より祈念しております。

# 駒澤大学教育後援会の遺伝子

駒澤大学教育後援会会長　松浦　雅人

駒澤会創立４０周年記念にあたりまして心からお祝いを申し上げます。

また創立以来４０年もの長きにわたり、約１０００名の奨学生支援にご尽力されてこられました駒澤会のご活躍に心より敬意を表します。

先の教育後援会創立５０周年記念にあたりましては、駒澤会のみなさま方のお力添えを頂きまして、多数の記念行事を無事執り行うことが出来ました。この場をお借りいたしまして改めて心より感謝申しあげます。

さて、進化論のダーウィンが云う「この世に生き残るものは、最も力の強いものでもなく、最も利口なものでもなく、それは、ただ変化に対応できたものだ」のとおり、取り巻く社会環境が依然厳しい中、われわれ委員を含めた親の様相も次第に変わりつつあり、また変わらなければならない社会状況にあります。

森屋正治４０周年記念事業実行委員長は、先の教育後援会５０周年記念誌において「駒澤大学教育後援会は駒澤大学の建学の理念、行学一如、信愛敬愛に沿い、常に自分を磨き、どんな時代にも対応できる教育のサポーター役にならなければならない」とお話をされました。

これは、周囲の環境が如何に変わろうとも常にあるべき遺伝子（本質）があることをわたしたちにお示し頂く貴重なお言葉であり、教育後援会理念の大切なお言葉のひとつとして、大切に継承してまいりたいと存じます。

結びに、今後とも駒澤大学教育後援会へのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げると共に、駒澤会の益々のご発展と会員の皆さまのご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げまして、創立４０周年にあたってのお祝いの言葉とさせていただきます。

# 駒澤大学駒澤会４０周年を祝して

駒澤大学同窓会会長　越後　宏允

駒澤大学駒澤会が結成から本年で４０周年を迎えられ、ここに記念誌が発行されますことを心からお祝いを申し上げます。

貴会は結成以来、在校生への奨学金提供と会員相互の親睦を深め、協調するという理念で永きに渡り活動を継続されてきました。ひとえに歴代名誉会長、会長はじめ、会員各位のご努力と駒澤大学への熱意の賜と敬意を表します。

昭和４６年、駒澤会発足当時の駒澤大学は、法学部と経営学部に第２部が増設され、翌年には政治学科が開設されました。まさに駒澤大学が大学入学者増の時代に、教育機関としての使命と世の中のニーズに答え、拡大発展をしていく最中でありました。

このようなときに最も必要とされたのは、在校生への「支援」であり、当時はまだ奨学金制度が現在ほど充実されていなかったはずですので、大学にとって、もちろん在校生にとっても駒澤会の支援が大変重要な役割をしていただいたことに間違いありません。

私自身、駒澤大学の卒業生として強く思いますのは、教育機関として大学は常に発展成長していかなければならないということです。校舎を建て、設備を整える外側の充実も重要ですが、何よりも一番の財産である学生たちが、学びやすい環境と条件で４年間を過ごし、駒澤大学で学んだことを誇りに思い、卒業した後に母校をどれだけ大切に思ってくれるかにかかっているのです。この「愛校心」は自然と生まれてくるものでもないのです。常に大学を取り巻く多くの人々の見守る目と心、学内においては立派な学生を育てようとする熱意が必要となります。

近年駒澤大学は、資産損失に伴う財政再建等の対応に始まり、駒沢キャンパス再開発計画、教育改革、新入生採用定数減という差し迫った課題に追われ、そして３月１１日の大震災による行事変更、電力問題等々、まさに駒澤の力が試されている状況と言わざるを得ません。

これからも貴会と共に、駒澤大学を支え発展させ、それぞれの役割を果たしながら、支援を継続していきたいと考えております。

結びに、会員の皆様におかれましては、これを契機により一層駒澤会を発展され、活動の更なる飛躍を期待し、同窓会にもご指導をお願いするものであります。

貴会のますますのご発展をご祈念申し上げましてお祝いの言葉といたします。

# 駒澤会４０周年をお祝いして

駒澤会相談役　磯田　昭

駒澤大学駒澤会創立４０周年おめでとうございます。活動に携わった一人として心よりお祝い申し上げます。

４０周年の節目の年を迎えて、あらためて思い起こされることは、駒澤会創立当時の皆様のご苦労です。事業のひとつの柱として「奨学金制度」の確立を目指し、無から有を生み出すための諸先輩方のご努力は、はかり知れないものがあります。その後、４０年間継続して学生に奨学金を出し続け、約１，０００名を数えるに至りました。この間、永続的に活動され、創立時の目的を達成すべくご尽力された皆様に、改めて深く敬意を表し感謝申し上げます。また、ご指導・ご協力を頂いた大学の関係者の皆様、教育後援会・同窓会の皆様にお礼を申し上げます。

私が会長を務めさせて頂いた６年間の重点施策としましては、永年の課題である「会員増強を図る」活動に取り組みました。一人でも多くの方に本会の活動を知って頂き、運営に積極的に参加して頂けるよう折にふれアピールして来ました。具体的には、一泊研修や懇親会に大学関係者及び教育後援会委員の皆様にご参加頂き、本会の活動をご理解頂けるよう努めました。また、初めての企画として、オータムフェスティバルに参加、模擬店を出店し学内への理解活動も進めました。今後も、常日頃からの理解活動に努め、会員増が図られる事を望みます。

大学を取り巻く環境は厳しさを増すばかりですが、この様な時こそ、大学の発展に寄与し、駒澤会の目的を達成するため、会員はもとより、大学の関係者・教育後援会・同窓会の皆様と協力して、本来進むべき道を模索して欲しいと思います。

駒澤大学と駒澤会が益々発展される事を今後共心より祈念して、お祝いの言葉と致します。

# 駒澤会の成り立ち

駒澤会顧問　高見　静子

駒澤大学の建学の理念に基づき、同窓会、父兄会と共に大学を外護し、学生の教育福利を増強する機関として、昭和４６年１０月に駒澤会は発足いたしました。

その頃、人格としても学業の成績も立派な学生が経済的理由で退学せざるを得なくなり、其の事を当時の副学長の藤田俊訓先生が、ご自分も大変苦労されて大学を卒業されていたので、その苦しみを思い、学生が学生生活を全うできるべく、駒澤大学建学の理念に基き「知恵」と「慈悲」により「心身学道」を実践する大学の一環として、当時仏教界でご活躍なさりご自分も苦労され大学生活をなされた黒田白純氏を初代会長として駒澤会を発足いたしました。

初期の課題としては在学生への奨学金制度、内地外地の留学生制度の確立を目的として、次に父兄ＯＢ相互の親睦、講演会、研修会などを行う会としての基金つくりが最大の目途でありました。

基金は曹洞宗本山永平寺、大本山総持寺、曹洞宗有力寺院や同窓生、父兄会ＯＢの方々から拠出をお願いいたしました。

事務局長には藤田副学長が自らその任に当たられ、宗門の寺に参上し趣旨を詳しく説明され御寄付をお願いに上られたと、創立当時のご苦労には察するに余りあるものであったようです。そのご苦労のおかげで基盤としての立派な基金ができあがりました。

禅語に「相続や大難」という言葉があるそうですが、それから４０年、脈々として学生への奨学金制度は受け継がれ今日があります。

駒澤会創立当時より今日の駒澤大学は確実に充実した発展をとげております。駒澤会は初代会長黒田白純師から芦辺鎌禅会長と変わり平成２年に２０周年を記念しました。それからまた２０年、平成６年から大村宣雄会長が柔和なお人柄で大学１２０周年記念行事をお納めになり約１０年間就任されました。そのあと磯田昭会長から平成２２年に現在の井上俊夫会長に引き継がれ現在活躍されております。それぞれの会長時にはその時々、大学から名誉会長として総長先生、名誉副会長として、学長先生が就任くださり会の行事にご参加くださっています。

この４０年の歳月駒澤会活動は会員各位が大学への感謝の自覚が強くあることにより、その時の会長を盛り立て、副会長、各部長、監査の役員は労苦を惜しまず活躍させていただけました。大学事務局にお世話になりながら、大学に寄り添った活動が出来る喜びを感じながら、学生の活躍を大いに喜び、期待させていただく楽しさを味わい、各自学ばせていただけた事は大変幸せなことと感謝いたしております。

駒澤会も創立当時と社会情勢、学生の様子なども様変わりしておりますが、現代社会の早い動きの中、学生の経済状態も万全ではありません。今年３月の東日本の震災に直接被害にあった学生もおられるとのことです。まだまだ駒澤会の役目は重要です。

会員皆々様の活躍が大学発展への祈りとなり実りとなることを願ってやみません。

# 駒澤会奨学金／奨学金授与式を取材して

駒澤会広報部副部長　荒井喜久子

駒澤会奨学金は駒澤大学開校１００周年を記念して、昭和５５年に「駒澤会奨学制度に関する検討委員会」を設置し、基本理念を学業奨励として制度実現のために検討を始めました。

昭和５７年に「駒澤大学駒澤会奨学金給付規程」が制定され、駒澤会奨学金が誕生しました。初年度はひとり２０万円×３０名、合計６００万円を給付し、駒澤会創立２０年を翌年に控えた平成元年度には、奨学金交付者が累計で３４５名に達しました。

現在はひとり２０万円×２５名、合計５００万円を給付し、４０周年を迎えた平成２３年に累計９８５名の学生へ奨学金を給付し、１０００名を超えようとしております。

平成２３年７月２０日、駒澤会奨学金授与式が石井清純学長、井上俊夫会長、赤堀菊絵副会長、田中隆一副会長、森屋正治副会長、広報部２名出席のもと、行われました。

石井学長より、駒澤会へ被災学生支援金や奨学金支援のお礼が述べられ、学生たちへ激励の言葉が述べられました。「この奨学金は皆さんの将来において、大きな感謝として残ります。今日のことを忘れずに勉学に精進して未来の為に頑張っていただきたい。夏休みが近いが遊んで奨学金を使い切らないように。」（一部抜粋）

井上会長より駒澤会の紹介がなされ、学生たちへの祝辞が述べられました。「駒澤会は今年で４０周年を迎え、累計で９８５名に奨学金を授与しました。皆さんもこの奨学金を糧に益々努力をして社会で活躍する人になっていただきたいと願っています。本日はおめでとうございました。」（一部抜粋）

授与された学生たちも「感謝の気持ちで一杯です。」とか「必ず将来の為になることに使用させて頂きます。」など感謝の気持ちや決意を述べる学生もいて、私も「駒澤会の会員でよかった、これからも学生たちを頑張って応援し続けようと」改めて決意いたしました。

創立４０周年の年に奨学金を受給した代表３名の喜びの声・決意の声を次ページより掲載させていただきましたのでご覧ください。

# 駒澤会の奨学金を受給して

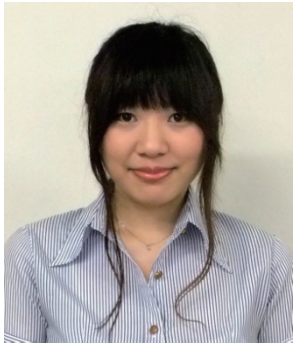
グローバルメディアスタディーズ学部
グローバルメディア学科２年　金澤　碧依

この度は、多くの学生の中から駒澤会奨学金支給生に選んでいただき、誠にありがとうございます。大変光栄に思うと同時に、感謝しております。

私は、中学から本格的に始まった「英語」の授業を受ける中で、日本語の持っていない、“世界中の人々とコミュニケーションがとれる”という英語の魅力に魅せられ、もっと英語を勉強したいと考えるようになりました。高校では、もちろん英語の勉強に力を入れると共に、英語愛好会にも所属し、地域の子供たちにその魅力を伝えるだけでなく、学校を訪問された外国の学生のお世話をするボランティアなどにも積極的に参加しました。多くの英語と触れ合う中で、大学に進学しても、英語を中心的に勉強してみたいと考えるようになりました。

そして、駒澤大学に入り、自分なりではありますが、一生懸命に学んだ結果として奨学生に選ばれ、この夏、それまで漠然と考えていた語学留学をアメリカで行うことができました。留学中は、本場の英語を勉強し、また常に触れていることで、英語力を高めることができただけでなく、今の自分の実力とより世界を知ることができました。さらに、自分の考えの甘さをも知ることができ、今後の目標も見つけることができたように思います。また、留学中は、滞在していた地域以外の様々な地域に小旅行にも行き、その土地土地の世界の人々の温かさにも触れることができました。この経験から、グローバル化の進む社会の中で外国の人々と互いに助け合いながら生きていくためには、自分の考えを自ら伝えることが大切であるという、日本人以外の国の人々とコミュニケーションをとることの重要性も見つけることができました。

今回の経験を活かしつつ、今後も英語を使い続けていきたいと考えているので、英語力を高められるように、さらに勉学に力を入れていきたいと思っています。そして、様々なことにも積極的にチャレンジすることで、自分自身を向上させていきたいと思います。



# 駒澤会の奨学金を受給して

経済学部現代応用経済学科　３年　藤井　恵

この度は、駒澤会の奨学生として採用していただきありがとうございます。

さて、私はあるひとつの信条を胸に毎日を生活しています。それは、「幸せでいる」ことです。「幸せ」を意識して生活することはとても簡単なことですが、案外忘れがちであるのではないかと思います。

しかし、人間の行動とは本来幸福になるための行動であったのではないでしょうか。だからこそ、それを意識して生活することは大切なのではないかと思うのです。実際「幸せ」を意識して生活することにより得る効用は大きいと私自身感じます。今日よりも明日を幸せにしたいと考えるため、毎日精一杯の努力をすることができるのです。それは趣味に対してだけでなく、勉学やアルバイトなど広範のことに対して言うことができます。

すると、すべてのことにやりがいをもって取り組むことができ、更なる向上を目指していくようになるのです。確かに毎日が毎日幸せでは居られませんが、その時はその理由を探るため自分を省みることができます。このことは、きっと明日への糧になるでしょう。だからこそ私は、「幸せでいる」ように心掛けますし、それにより実際に毎日が幸せであるとも感じています。

ここで私が考えるのは、「情けは人の為ならず」の言葉同様に、すべてのことは回り回って自分に帰ってくるということです。情けに限らず、趣味の追求や勉学への努力に関しても同じだと思います。だからこそ、幸せだと思えるほど充実した１日を過ごすために全身全霊をかけることが必要なのです。これは一見、自己中心的な考えに思えるかもしれませんが、寧ろ心が健康だからこそ周囲へ感謝の気持ちが持てるのではないでしょうか。

実際、私が今こうして駒澤大学の一学生で居られるのも毎日汗水垂らして一生懸命働いてくれている両親のおかげであり、それについては頭も上がらないほどに感謝しています。そんな両親に少しでも負担をかけないようにしたいと常々思っていましたが、往復４時間以上の通学時間を考えるとこれ以上アルバイトを増やすことも難しく、結局感謝の気持ちから本業である勉学だけは怠ることのないように努力しました。その結果、このような形で評価していただけたのです。私だけではなく、両親もこのことを大変喜んでくれました。これも、すべては「幸せ」を意識した結果だと思います。

今後は奨学生とし、駒澤会の皆様への感謝も忘れず、精一杯努力していきます。

# 駒澤会奨学生として

経営学部市場戦略学科４年　湯浅　宏仁

この度は、駒澤大学駒澤会の奨学生として選んでいただき誠にありがとうございます。大変光栄に存じます。

実は私は大学に２度通っています。現役で徳島大学の栄養学科に入学し卒業したのち、３年次編入として駒澤大学に入学し今に至っています。また、その間には１年のブランクがあり、今年で２５歳になります。そのため、普通の大学生とは違う視点で大学という場所を見ることができました。今回はその中で得た気づきや将来に対する思いを中心にお話して行きます。

気づきといってもありきたりですが、大学とは自由を手にするために入る場所ではないかということです。これは１年のブランク期間に１０時～２２時まで飲食店で働いていたからわかるのですが、社会人になってしまうとしなければならないこと（ｍｕｓｔ）に追われてしまいます。意識しなければ自分の時間というものを取ることができません。しかし、大学では卒業することも含めてしたいこと（ｗａｎｔ）の中からできること（ｃａｎ）を選ぶ自由が与えられます。極端な話、良し悪しは置いておいて、朝起きて海を見にふらっと出掛けることもできます。

もちろん、自由に好き勝手やればよいということをお話しする気は毛頭ありません。大事なのはその選べる中で自分が何を選択するかです。この何を選択するということが非常に大切であると感じています。これはつまり、お金と時間の使いみちに置き換えられます。

その事に関しては様々な価値観があると思いますが、私は最終的に自分自身への投資に使うという結論に至りました。自己投資と言うと、株などを思い浮かべ固いイメージを抱きがちですが、簡単に言えば未来のなりたい自分に近づくための出費というところでしょうか。ですので、まずは将来の明確なイメージを確立させることが肝要です。私はビジネスパーソンとして成功したかったので、奨学金の大部分を自分の能力開発をテーマにセミナーへ投資しました。他の候補として、デキル人に見られるためのパワースーツ、パワーシューズ、パワーシャツなど様々なものがありました。しかし、長期的に見たときに大きいリターンを得られると確信してセミナーに出資することを決意しました。そのセミナーで得られた学びは大きく、何にも変えがたい有意義な時間を過ごすことができました。これも自由な中で自己投資という選択を選んだ結果です。

以上のように私は、将来の目的や目標を具体的に設定し逆算し現在自分何をすべきときなのかを常に選択しながら精進して行くことを奨学生として誓います。

# 駒澤会のあゆみ　その１（創立２０年～３０年）

**平成３年度**
年１回会計監査、年に数回役員会・常任委員会を開催
規程改正小委員会を数回開催
　６月　委員総会
１０月　駒澤会・父兄会役員・委員による懇談会
　　駒澤大学特別奨学生選考委員会
１１月　臨時委員総会、奨学金授与式

**平成４年度**
年１回会計監査、年に数回役員会・常任委員会を開催
外国人私費留学生へ１３０万円支援
　５月　委員総会
　９月　研修旅行（箱根・１泊２日）
１０月　駒澤会奨学金選考委員会
１１月　奨学金授与式
１２月　駒澤会と父兄会懇談会

平成７年度研修旅行
総長　桜井秀雄先生　法話

**平成５年度**
年１回会計監査、年に数回役員会・常任委員会を開催
　５月　委員総会
　９月　研修旅行（箱根・１泊２日）
１０月　父兄会役員、４年生委員・駒澤会役員懇親会
　　駒澤会奨学金選考委員会
１１月　奨学金授与式

**平成６年度**
年１回会計監査、年に数回役員会・常任委員会を開催
　５月　委員総会
１０月　研修旅行（箱根・１泊２日）
１１月　奨学金授与式

平成８年度研修旅行

**平成７年度**
年１回会計監査、年に数回役員会・常任委員会を開催
　６月　委員総会
　９月　研修旅行（箱根・１泊２日）
１０月　駒澤会奨学金選考委員会
１１月　奨学金授与式

**平成８年度**
年１回会計監査、年に数回役員会・各部会を開催
　６月　委員総会
１０月　研修旅行（湯河原・１泊２日）
１１月　奨学金授与式

# 駒澤会のあゆみ　その１（創立２０年～３０年）

**平成９年度**

年１回会計監査、年に数回役員会・各部会を開催
６月　委員総会
１０月　研修旅行（富士・箱根１泊２日）
１１月　奨学金授与式
１２月　副会長・常任委員会
　２月　特別委員会
　３月　特別委員会

富士・箱根・伊豆国立公園　白糸滝観光ドライブイン

平成９年度研修旅行

**平成１０年度**

年１回会計監査、年に数回役員会・各部会を開催
　４月　特別委員会
　６月　委員総会
１０月　研修旅行（信州・戸倉上山田１泊２日）
１２月　教育後援会との懇親会
　１月　臨時委員総会

**平成１１年度**

年１回会計監査、年に数回役員会・各部会を開催
　５月　委員総会
１０月　研修旅行（会津・芦ノ牧１泊２日）
　３月　松田総長との懇談会

**平成１２年度**

年１回会計監査、年に数回役員会・各部会を開催
　５月　委員総会
　７月　日帰りバスツアー
　９月　研修旅行（箱根・１泊２日）
１０月　臨時委員総会
　２月　教務部との懇談会

平成９年度研修旅行

**平成１３年度**

　４月　会計監査、役員会・各部会
　６月　委員総会
　７月　夏の親睦会（屋形船）、奨学金選考委員会
　９月　研修旅行（箱根・１泊２日）
１０月　役員会・各部会
１１月　忘年会
　２月　役員会・各部会
　３月　役員推薦委員会

# 駒澤会のあゆみ　その２（創立３１年～４０年）

**平成１４年度**

４月　会計監査、役員会・各部会
５月　委員総会
　　教育後援会と駒澤会の懇親会
６月　初夏の親睦会
７月　夏の親睦会（屋形船）
　　役員会・各部会
　　基金管理委員会
９月　役員会
１０月　**駒澤大学１２０周年記念事業への寄付（１億円）**
１１月　研修旅行（秋保・１泊２日）
　　奨学生選考委員会
１月　役員会・各部会
３月　役員会・各部会

---

**平成１５年度**

４月　会計監査、春の親睦会
　　役員会・各部会
５月　委員総会
　　教育後援会と駒澤会の懇親会
６月　初夏の親睦会
７月　厚生部会
９月　厚生部会
１０月　秋の研修旅行（鎌倉・１泊２日）
　　役員会
１１月　奨学生選考委員会、広報部会
１２月　忘年会
１月　役員会
　　駒澤会だより１号発行（創刊号）
２月　厚生部会・役員推薦委員会
３月　役員会・各部会

---

**平成１６年度**

４月　会計監査、役員会・各部会
５月　総務部会・厚生部会、委員総会
６月　駒澤会懇親会（横浜）
　　広報部会
７月　駒澤会と教育後援会の懇親会
８月　駒澤会だより第２号発行
９月　厚生部会
１０月　秋の研修会（山梨・１泊２日）
　　奨学金選考委員会、役員会
１１月　忘年会
　　総務部会・広報部会
１２月　総務部会・広報部会
１月　駒澤会だより３号発行
　　箱根駅伝応援会、役員会
２月　総務部会
　　会員増強プロジェクト会議
３月　役員会・各部会

---

**平成１７年度**

４月　会計監査
　　執行部会・役員会・各部会
５月　委員総会
６月　初夏の親睦会（浅草）
　　駒澤会だより取材・広報部会
７月　駒澤会と教育後援会の懇親会
　　役員会・各部会
８月　駒澤会だより第４号発行
　　総務部会
１０月　秋の研修会（箱根・１泊２日）
　　広報部会
１１月　役員会・各部会、基金管理委員会
　　忘年会、駒澤会だより取材
１２月　駒澤会だより企画「道場寺拝観」
　　広報部会
１月　役員会、駒澤会だより５号発行
２月　役員推薦委員会
３月　役員会・各部会

# 駒澤会のあゆみ　その２（創立３１年～４０年）

**平成１８年度**

４月　会計監査、役員会・各部会
５月　委員総会
６月　初夏の親睦会（大仁温泉）
７月　駒澤会と教育後援会の懇親会
　　役員会・各部会
８月　駒澤会だより６号発行
９月　一泊研修旅行（南房総・１泊２日）
１１月　忘年会
１２月　広報部会
１月　役員会・各部会
　　駒澤会だより７号発行
３月　役員会・各部会

---

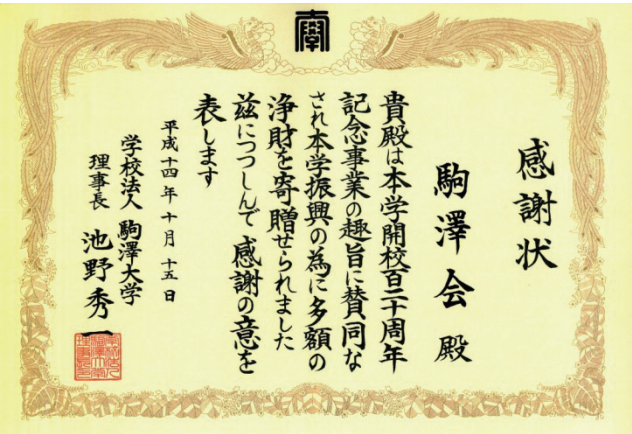
**平成１９年度　※駒澤会のＨＰを開設しました**

４月　会計監査、役員会・各部会
５月　委員総会
６月　臨時役員会
　　初夏の親睦会（東京湾ディナークルーズ）
７月　役員会・各部会
　　駒澤会と教育後援会の懇親会
８月　駒澤会だより８号発行
９月　秋の一泊研修会（箱根・１泊２日）
１０月　役員会・各部会
１１月　オータムフェスティバル参加
　　忘年会
１月　臨時役員会、役員会・各部会
　　駒澤会だより９号発行
３月　臨時役員会、役員会・各部会

---

**平成２０年度**

４月　会計監査、役員会・各部会
５月　委員総会
６月　役員会、初夏の親睦会
７月　駒澤会と教育後援会の懇親会
　　役員会・各部会
　　駒澤会だより１０号発行
１０月　秋の一泊研修会（稲取温泉・１泊２日）
　　役員会・各部会
１１月　忘年会
１２月　役員会・広報部会
　　駒澤会だより１１号発行
１月　役員会・各部会
２月　総務部会
３月　役員会・総務部会


感謝状

駒澤会　殿

貴殿は本学開校百二十周年記念事業の趣旨に賛同なされ本学振興の為に多額の浄財を寄贈せられました
茲につつしんで感謝の意を表します

平成十四年十月十五日

学校法人　駒澤大学
理事長　池野秀

大学からの感謝状

平成１９年度秋の研修会

# 駒澤会のあゆみ　その２（創立３１年～４０年）

**平成２１年度**

４月　会計監査、役員会・各部会
５月　委員総会
６月　広報部会、初夏の親睦会
７月　役員会・各部会
　　駒澤会と教育後援会の懇親会
　　駒澤会だより１２号発行
１０月　秋の研修会（千賀ノ浦部屋・日帰り）
　　厚生部・広報部会
１１月　役員会・各部会
１２月　広報部会
　　一泊忘年会（熱海・１泊２日）
　　駒澤会だより１３号発行
１月　役員会・各部会
３月　会長・副会長合議
　　役員会・各部会

---

**平成２２年度**

４月　会計監査、役員会・各部会
５月　委員総会
６月　広報部会・初夏の親睦会
７月　当局との面談
　　役員会・各部会
　　奨学金授与式（井上会長より授与）
　　駒澤会だより１４号発行
８月　駒澤会と教育後援会の懇親会
１０月　磯田相談役慰労会
　　秋の研修会（永平寺、三国温泉・２泊３日）
　　役員会・各部会
１１月　４０周年記念事業実行委員会
　　忘年会
１２月　学長懇談会、広報部会
　　駒澤会だより１５号発行
１月　役員会・各部会
　　４０周年記念事業実行委員会
２月　４０周年記念事業実行委員会
３月　役員会・各部会
　　（東日本大震災の為３月は中止）

---

**平成２３年度**

４月　会計監査、役員会・各部会
５月　４０周年記念事業実行委員会
６月　初夏の親睦会
７月　役員会・各部会
　　駒澤会だより１６号発行
　　奨学金授与式（井上会長より授与）
８月　４０周年記念事業実行委員会
１０月　秋の研修会（鬼怒川・１泊２日）
　　役員会・各部会
　　４０周年記念事業実行委員会
１１月　４０周年記念祝賀会
１２月　４０周年記念事業実行委員会
　　広報部会
　　創立４０周年記念誌
　　「駒澤会のあゆみ」発行

平成２２年度委員総会

平成２３年度秋の研修会

# 駒澤会の思い出

駒澤会副会長　赤堀　菊絵

歴史ある駒澤会にたずさわり、駒澤会は今年創立４０周年を迎える、どれほど多くの人達と深くかかわって来た事か、今振り返ってみると、思い出はここから始まった。

息子が駒澤大学付属高等学校から推薦入学で駒澤大学に入学してから時の流れの早さに驚いてしまいます。

今とは状況が違い、卒業すると同時に皆、駒澤会に入会したものでした。その息子も、仕事に大変厳しい大阪で修業をし、このご時世の中、主人の経営する会社を継いでおります。

私が入会した頃の駒澤会は華やかで、諸先輩方は素敵な人達がいて、それなりに良き時代でした。

大学も活気に溢れ、マラソン、野球、ボクシング、吹奏楽、数々の輝かしい優勝、祝賀会、色々な所へ参加し、応援に行ったあの頃がとても懐かしく思います。

私が特に印象に残っている活動は、秋の一泊参禅会、一歩永平寺に足を踏み入れると、そこはまるで別世界、極楽浄土、静寂の中、心は無となり只只（只管打坐）時間や、呼吸をこんなに意識すること、日常生活の中で感じることのない、あるがままの姿、一斉に読経が始まり、お経本を全員手で操るしぐさを見ると、自然と頭がさがり、とても有難い気持ちになります。

駒澤会では、個性豊かな人達に出逢い、沢山の思い出、人との不思議なご縁を戴きましたことに感謝です。

又、これもご縁があり、私事ですが今年２月にインドビハール州ブッタガヤにある、インド山日本寺を訪れる機会に恵まれ、早朝の坐禅、本堂での法要と貴重な体験をさせて戴きました。お寺巡り、古城をたずね、マハラジャにお会いすることも出来、念願が叶えられた事、大変感激致しました。念ずれば花ひらく。私の好きな言葉です。

# 心に残った思い出の人

駒澤会　玉田　武子

駒澤大学駒澤会４０周年を迎え心よりお祝い申し上げます。

昭和４６年開校９０周年記念の折、ＯＢ会が「駒澤会」として、大学発展拡充に資する目的として設立されました。

当時は卒業式に小さな机を前にして、事務局の津村嘉男先生と私たち５・６名の委員が父兄の方々に呼びかけ駒澤会入会金を頂いたものです。

当時学監でした藤田名誉総長の幾多のご功績により、飛躍的な発展の今日の駒澤大学があるものと信じております。慈愛に満ちたあの瞳でユーモアを交えての説得力が原動力となって、私達も大学進展の為に何か為さねばと心に誓ったものです。

５７年、開校１００周年を契機に「駒澤会奨学金」制度を設け、今日迄１０００名程の奨学生を送り出しております。

昭和４４年、玉電廃止により「駒沢大学駅」設置の為「駒澤大学駅設置対策委員会」を、入院中にも拘らず、会長を藤田学監、事務局長を若月第２学事部長陣営のもと多くの人々が署名運動を始めました。私たち委員も毎日かけずり回りました。幾多の難関を乗り越え５２年４月７日、東急地下鉄線「駒沢大学駅」が誕生、開通の喜びに皆浸ったものでした。「駒澤大学側出口」からはキャンパスに向かう、若き希望に満ちた駒大生が道を埋めております。

昭和３９年９月、保坂玉泉総長遷化、あの日の校庭には真っ赤なカンナの花が一杯咲いておりました。現在でもあの日の事は忘れません。そのときふと詠んだ短歌です。

亡き人の命の如くサルビアは
夏陽に映えて赫々と燃ゆ

大学再建拡張に入退院を繰り返しながら情熱を燃やし続けた藤田俊訓総長遷化の悲報に接し、皆驚きと悲しみに包まれました。

昭和５０年３月３日、賢崇寺・駒澤大学の合同葬が賢崇寺で荼毘式が執り行われました。開式の辞は当時図書館長の若月正吾先生と記憶しております。各界代表、一般焼香のあと、博林総長のご挨拶でした。静かな中、禅庭の白梅の木で鶯の澄んだ悲しげな鳴声を聞きました。鶯にも主を失ったこの悲しみが判るのでしょうか。

４月の大練忌（四十九日）には駒澤会から数人出席致しました。御法事で頂きました藤田夫人千鶴様の「生生流転」という喜寿のお祝いに捧げる七七七句の俳句集で夫婦愛豊かな句で何度拝読しても涙が溢れてくる句ばかりです。

玄関を出ると外は春雨。藤田学監の涙雨だったのでしょうか、水色の傘をお借りして辞しました。今はあちらで仲睦まじくお過ごしの事でしょう。

昭和５３年７月岡本素光総長遷化、駒澤会からは数十名参列し、帰途近くの店で在りし日の岡本総長を偲びました。「自分自身は何であるか、何をなすべきか」と常に学生諸君に説いていた総長のご急逝は学生にとって、とてもとても残念であったと思います。岡本総長に某先生がご依頼し、駒澤会の私にとお書き下さったという掛け軸は、我が家の大切な宝物です。

最近は駅伝、野球とも優勝祝賀会に縁がございませんが、戦後４代目応援団長、小松武男先生の舞台を縦横するダイナミックな応援の素晴らしさは、私達を若き日の学生時代にタイムスリップをさせ、感激、感動、興奮で胸が一杯でした。
小松先生とは「太田監督勇退の集い」のあと平成１８年の年賀状が最後となりました。

安曇野に輝くアルプスの峰々平和な年であって欲しいと念じつつ（ご達筆な毛筆で）

今年も「箱根駅伝」母校の活躍を期待して箱根詣でを致します。
皆様と共に健康であることを願い今年も一層のご厚誼をお願い申し上げます。（印刷で）

合併により平成１７年１０月１日より安曇野市になりました。それまでは町長さんでご活躍でした。

平成１７年の大晦日も安曇野から上京なさり、恒例の箱根駅伝中継所の近くの宿で中畑選手、津村先生の方々と語り合い、駒大優勝を念じつつ杯を重ね英気を養っていらした事でしょう。今放映のＮＨＫ朝の番組「おひさま」には美しい花々がアルプスの峰をバックに写し出されております。
執筆中、偶然ＴＶより「千の風になって」の曲が流れて来ました。ご遷化された歴代の総長は駒澤大学と学生をこよなく愛しておられましたが、詩の如く今天空を駆けめぐり、駒澤大学を永遠に守り続けて下さる事と信じております。
初めての研修会は大学からバスで信州長野の蓼科寮でした。白樺の林を行けば前方には青空に霧が峰高原がくっきりと浮かび素晴らしい光景の中に学生寮はありました。今は廃寮となり、野尻湖畔の野尻寮はテニスコートもあり、研修やレクリエーションに最適との事です。
講堂館では資料館で様々な珍しい品を見る事が出来、道場では実技を拝見、犯人撃退法なども指導して頂けました。
民主党、前外務大臣前原議員は「ご両親に早く死別し、高校、大学とも奨学金のお世話になり卒業する事が出来ました」と堂々とお話しておられました。
又、駒澤会奨学金受給生は「奨学生に選んでいただいた光栄と感謝の気持ちで一杯です」という言葉を聞き、奨学金の意義ある事に再認識致しました。
駒澤会を４０年、皆様と共に歩んで参りましたが、現在世代の違う若い方々も増え、溌剌と会の為に取り組んでおられます。
同期の桜は私１人位になってしまいましたが、皆様と交流出来る幸せを心から感謝し、旃檀林「信・誠・敬・愛」の４徳目を心にきざみ、残り少ない人生を「駒澤会」私事ですがアニメ「サザエさん」共々生涯現役で頑張って行く所存です。
皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

# 玉田武子さん思い出の写真

# 駒澤会の思い出

駒澤会　吉田　　瑛

駒澤会に１９８６年に入会し、今日に至っています。毎年総会に出席し、資料を貰い種々お話を承り、大変勉強になりました。幅広く政治経済に関する勉強もできました。一方に於いて懇親の場として屋形船乗船、相撲部屋の見学、音楽鑑賞、一泊旅行等々を通じ、会員間の相互の親睦を計る事が出来ました。

他方に於いて有志により駅伝、サッカー、野球、吹奏楽、空手道の応援をする事が出来ました。

最後に駒澤会は奨学金を確かな制度にし、学生の皆さんの学問を極めるための一助となるべく、会員の増強を計りながら、会員間の意思疎通を深め活動し、大学の興隆発展に少しでも寄与する事が出来たものと信じております。

駒澤会会員の皆さまは、温かさと思いやりにあふれ、教養ある方々で、駒澤会の一員でいる事が出来ました事大変光栄に思い、又感謝しております。

駒澤大学並びに駒澤会のますますの発展を祈念申し上げます。

# 駒澤会創立４０周年記念祝賀会報告

駒澤会副会長　田中　隆一

平成２３年１１月１２日（土）午後２時より、駒澤大学深沢キャンパス「洋館大ホール」にて駒澤会４０周年記念祝賀会が開催されました。

来賓に学校法人駒澤大学理事長の須川法昭様、駒澤大学総長であり駒澤会名誉会長の田中良昭先生、教育後援会より会長であり駒澤会参与の松浦雅人様、副会長であり駒澤会参与の岡田久美子様、副会長の高橋俊夫様、副会長の佐藤隆彦様、同窓会より会長の越後宏允様、前名誉会長の大谷哲夫様にご出席いただき、総勢４７名で開催されました。

最初に参加者全員で記念撮影を行いました。

赤堀菊絵副会長の司会で始まり、井上俊夫会長による開会の辞と挨拶、森屋正治実行委員長の挨拶に続き、理事長、総長、教育後援会会長、同窓会会長の祝辞を頂戴いたしました。

次に、近年駒澤会の発展に多大なるお力を頂戴した大村宣雄様、前会長であり相談役の磯田昭様、特別顧問の牧祐弘様、特別顧問の山口邦夫様の４名に、駒澤会より感謝状と記念品の額縁が井上俊夫会長から贈呈されました。

磯田昭相談役によるご挨拶及び乾杯で会場は更なる祝賀ムードに包まれました。

祝賀会には駒澤会の事務局を以前担当していた教務部事務部長の佐藤旺様、保健管理センターの指隆様、教育振興部の唐澤晶子様もご参加頂きました。会員の方々は当時を懐かしんで談笑をしたり、集まって記念写真を撮影したりと、とても和やかな雰囲気で祝賀会は進行いたしました。

最後に前名誉会長の大谷哲夫様に中締めの御挨拶を頂戴しました。駒澤会会員の祝賀会への参加が少ない事、教育後援会の役員・委員経験者の駒澤会入会者が少ない事（現在の駒澤会の課題）を改めてご指摘いただきました。

駒澤大学と駒澤会の更なる発展、会員・参加者の健勝を願い、盛会裡のうちに閉会となりました。

# 駒澤会創立４０周年記念祝賀会写真

# 創立20年から40年　駒澤会会長・副会長・監査一覧

| 年度 | 会　長 | 副会長 | | | | | 監査 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成3年度 | 芦辺鎌禅 | 伊藤栄洪 | 井街　哲 | 大村宣雄 | 勝田勝義 | 佐原節男 | 山本政治 | | |
| | | 野口　貢 | 野村安久 | 宮本康次 | 山口　昭 | 和田光臣 | | | |
| 平成4年度 | 芦辺鎌禅 | 井街　哲 | 勝田勝義 | 野口　貢 | 野村安久 | 舛井和幸 | 石川　弘 | 磯田　昭 | 山本政治 |
| | | 安井輝明 | | | | | | | |
| 平成5年度 | 芦辺鎌禅 | 井街　哲 | 勝田勝義 | 西田守夫 | 野村安久 | 舛井和幸 | 石川　弘 | 磯田　昭 | 山本政治 |
| | | 安井輝明 | | | | | | | |
| 平成6年度 | 大村宣雄 | 井街　哲 | 勝田勝義 | 西田守夫 | 野村安久 | 舛井和幸 | 石川　弘 | 磯田　昭 | 山本政治 |
| | | 安井輝明 | | | | | | | |
| 平成7年度 | 大村宣雄 | 井街　哲 | 喜多孝夫 | 西田守夫 | 野村安久 | 舛井和幸 | 石川　弘 | 磯田　昭 | 山本政治 |
| | | 村田保廣 | | | | | | | |
| 平成8年度 | 大村宣雄 | 青木米蔵 | 井街　哲 | 喜多孝夫 | 西田守夫 | 舛井和幸 | 石川　弘 | 磯田　昭 | 山本政治 |
| | | 村田保廣 | | | | | | | |
| 平成9年度 | 大村宣雄 | 青木米蔵 | 井街　哲 | 植竹　昌 | 喜多孝夫 | 舛井和幸 | 石川　弘 | 磯田　昭 | 山本政治 |
| | | 村田保廣 | | | | | | | |
| 平成10年度 | 大村宣雄 | 青木米蔵 | 植竹　昌 | 喜多孝夫 | 中村一文 | 村田保廣 | 石川　弘 | 磯田　昭 | 田村健蔵 |
| | | 和田　節 | | | | | | | |
| 平成11年度 | 大村宣雄 | 青木米蔵 | 高笠幹男 | 中村一文 | 村田保廣 | | 石川　弘 | 磯田　昭 | 田村健蔵 |
| 平成12年度 | 大村宣雄 | 青木米蔵 | 高笠幹男 | 村田保廣 | | | 石川　弘 | 磯田　昭 | 田村健蔵 |
| 平成13年度 | 大村宣雄 | 青木米蔵 | 高笠幹男 | 村田保廣 | | | 石川　弘 | 磯田　昭 | 田村健蔵 |
| 平成14年度 | 大村宣雄 | 高笠幹男 | 高見静子 | 三宅哲也 | | | 石川　弘 | 磯田　昭 | 田村健蔵<br>（途中辞任） |
| 平成15年度 | 大村宣雄 | 高笠幹男 | 高見静子 | 三宅哲也 | | | 磯田　昭 | 澤畑三郎 | 戸谷誠之 |
| 平成16年度 | 磯田　昭 | 高笠幹男 | 高見静子 | 三宅哲也 | | | 澤畑三郎 | 戸谷誠之 | 村田保廣 |
| 平成17年度 | 磯田　昭 | 高笠幹男 | 高見静子 | 三宅哲也 | | | 澤畑三郎 | 戸谷誠之 | 村田保廣 |
| 平成18年度 | 磯田　昭 | 赤堀菊絵 | 井上俊夫 | 澤畑三郎 | | | 戸谷誠之 | 三宅哲也 | 村田保廣 |
| 平成19年度 | 磯田　昭 | 赤堀菊絵 | 井上俊夫 | 澤畑三郎 | | | 戸谷誠之 | 三宅哲也 | 村田保廣 |
| 平成20年度 | 磯田　昭 | 赤堀菊絵 | 井上俊夫 | 村田保廣 | | | 戸谷誠之 | 三宅哲也 | 吉田洋一 |
| 平成21年度 | 磯田　昭 | 赤堀菊絵 | 井上俊夫 | 村田保廣 | | | 戸谷誠之 | 三宅哲也 | 吉田洋一 |
| 平成22年度 | 井上俊夫 | 赤堀菊絵 | 田中隆一 | 森屋正治 | | | 一戸隆男 | 三宅哲也 | 吉田洋一 |
| 平成23年度 | 井上俊夫 | 赤堀菊絵 | 田中隆一 | 森屋正治 | | | 一戸隆男 | 三宅哲也 | 吉田洋一 |

（敬称略・あいうえお順）

# 創立20年から40年　大学当局・駒澤会担当部長・事務局一覧

| 年度 | 総　長<br>（名誉会長） | 学　長<br>（名誉副会長） | 副学長<br>（名誉副会長） | 事務局長 | 事務部長 | 担当事務局 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成3年度 | 鏡島元隆 | 平井俊榮 | 上坂修夫 | 渡邊泰三 | 関　延郎 | 津村嘉男 | |
| 平成4年度 | 鏡島元隆 | 平井俊榮 | 上坂修夫 | 渡邊泰三 | 関　延郎 | 津村嘉男 | |
| 平成5年度 | 櫻井秀雄 | 阿部肇一 | 田上太秀 | 渡邊泰三 | 関　延郎 | 実松俊辰 | 渡辺厚子 |
| 平成6年度 | 櫻井秀雄 | 阿部肇一※1<br>奈良康明 | 田上太秀※2<br>雨宮眞也 | 渡邊泰三 | 池野秀一<br>※3 | 実松俊辰 | 渡辺厚子 |
| 平成7年度 | 櫻井秀雄 | 奈良康明 | 雨宮眞也 | 渡邊泰三 | 池野秀一<br>※3 | 実松俊辰<br>渡辺　巌 | 渡辺厚子 |
| 平成8年度 | 櫻井秀雄 | 奈良康明 | 雨宮眞也 | 渡邊泰三 | 池野秀一<br>※3 | 柘植忠章<br>渡辺　巌 | 渡辺厚子 |
| 平成9年度 | 松田文雄 | 奈良康明 | 雨宮眞也 | 渡邊泰三 | 中田英彦 | 柘植忠章<br>渡辺　巌 | 渡辺厚子 |
| 平成10年度 | 松田文雄 | 雨宮眞也 | 大谷哲夫 | 田邊祖光 | 菅野文夫 | 柘植忠章<br>渡辺　巌 | 河崎安子 |
| 平成11年度 | 松田文雄 | 雨宮眞也 | 大谷哲夫 | 田邊祖光 | 御堂前信也<br>※4 | 柘植忠章<br>徳本克彦 | 河崎安子<br>渡辺　巌 |
| 平成12年度 | 松田文雄 | 雨宮眞也 | 大谷哲夫 | 田邊祖光 | 御堂前信也<br>※4 | 柘植忠章<br>渡辺　巌 | 佐藤　旺 |
| 平成13年度 | 松田文雄 | 雨宮眞也 | 大谷哲夫 | 大渕勝博 | 柘植忠章 | 佐藤　旺 | 指　　隆 |
| 平成14年度 | 松田文雄 | 大谷哲夫 | 竹花光範 | 大渕勝博 | 柘植忠章 | 佐藤　旺 | 指　　隆 |
| 平成15年度 | 奈良康明 | 大谷哲夫 | 竹花光範 | 大渕勝博 | 柘植忠章 | 佐藤　旺 | 指　　隆 |
| 平成16年度 | 奈良康明 | 大谷哲夫 | 竹花光範 | 大渕勝博 | 菅野文夫 | 生方盛次 | 指　　隆 |
| 平成17年度 | 奈良康明 | 大谷哲夫 | 竹花光範 | 高橋正弘 | 仁王聖雄 | 水船邦雄 | 指　　隆 |
| 平成18年度 | 大谷哲夫 | 池田練太郎 | 川本　勝 | 高橋正弘 | 仁王聖雄 | 水船邦雄<br>唐澤晶子 | 小椋正博 |
| 平成19年度 | 大谷哲夫 | 池田練太郎 | 川本　勝 | 高橋正弘 | 仁王聖雄 | 水船邦雄<br>唐澤晶子 | 小椋正博<br>※5 |
| 平成20年度 | 大谷哲夫 | 池田練太郎 | 川本　勝 | 高橋正弘 | 田中泰明 | 臼倉新治郎 | 唐澤晶子 |
| 平成21年度 | 田中良昭 | 石井清純 | 齊藤　正 | 清水文夫 | 田中泰明 | 臼倉新治郎 | 唐澤晶子 |
| 平成22年度 | 田中良昭 | 石井清純 | 齊藤　正 | 清水文夫 | 岩根嶺雄 | 唐澤晶子 | 田村元樹 |
| 平成23年度 | 田中良昭 | 石井清純 | 齊藤　正 | 清水文夫 | 岩根嶺雄 | 唐澤晶子 | 田村元樹 |

（敬称略）

※1　阿部肇一は7／31まで、奈良康明は8／1から
※2　田上太秀は7／31まで、雨宮眞也は8／1から
※3　池野秀一は総務部長兼務
※4　御堂前信也は総務部長兼務
※5　小椋正博は5／31まで

# 「駒澤会奨学金基金」へのご寄付のお願い

生まれたばかりの新制・駒澤大学を支援する団体として、有志の方々が駒澤会を創設してから今年で４０年となりました。設立当初、出来るだけ多くの駒澤大学生に奨学金を支給するため、会員が手分けをして宗門はじめ全国各地で寄付をお願いして回り、１０年余の年月をかけて当時としては極めて高額の３億円の基金を集められたと聞いています。寄付された方の中には、永年駒澤大学に奉職された先生方から、退職金の全額を寄付して頂いたという逸話も聞いております。

駒澤会では多数の方々の深い思いのこもった基金によって、毎年２５名の在校生に総額５００万円の奨学金の支給を継続して行っています。バブル崩壊以来２０年近い経済不況によって、子弟を大学に送る父母の皆様のご苦労は年々大きくなるばかりですが、駒澤会奨学金が学生やご父母を少しでも支え、勉学に適した環境を作る上にお役に立つことを念じながら活動しております。

支給する奨学金は、原則として毎年新規入会される会員から入会金収入と基金の運用利益から支出したいと努力してはおりますが、長期に渡るデフレ経済によって奨学金の総額に遠く及ばずここ暫くは赤字決算が続き、そのため基金総額がしだいに減少しつつあるのが現状です。

今年創立４０周年を迎えるに当たって、駒澤会会員や駒澤大学関係者の方々に駒澤会奨学金の意義をご理解いただき奨学金基金の積み増しのために、ご寄付をお願いしたいと思います。これまで駒澤大学が、日本の将来を支える若者の教育に大きな力を注いできた事をご理解いただき、苦しい経済状況の中で子弟のために奮闘しておられる現役学生の父母のためにも、是非皆様のお力添えを切にお願い申し上げます

平成２３年１２月
駒澤会会長　井上　俊夫

□駒澤会奨学基金への寄付手続き
同封の郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、お振り込みください。

１口＝５，０００円
（小額での御寄付も有難くお受けいたします）

# ４０周年記念事業を終えて

駒澤会４０周年記念事業実行委員会
委員長　森屋　正治

駒澤大学駒澤会は昭和４６年１０月に発足し、本年で４０周年を迎える事になりました。発足当初より卒業生父兄会ＯＢの有志の方々が卒業後の相互親睦をはかり大学興隆発展のため、特に奨学金給付制度を確立して少しでも大学また学生に寄与してゆきたいと云う念願でございました。

昭和５７年に学生に初めて支給出来る様になった事と聞きおよんでいます。

そして今までに約１０００名の学生に奨学金を授与する事が出来ました。これも偏に歴代会長はじめ、役員の方々の御尽力また、会員はもとより大学当局、宗門をはじめ関係各位の御協力御支援の賜物と敬意を表すとともに感謝申し上げます。

４０周年記念事業を遂行するにあたり不肖私が実行委員長に推挙され皆様方の御協力御支援のもとどの様な記念事業を行うべきか実行委員会を重ねて開催させて頂きました。その間東日本大震災並びに福島原子力発電所の放射能汚染と云う大惨事等がございました。４０周年と云う事と併せて、今回は式典は行わず、祝賀会のみを１１月１２日に深沢校舎で開催致し駒澤会発足当初より祝賀会当日までを収めたこの記念誌の発行となりました。

活動関係資料の提供、原稿依頼等と御協力を頂いた各位にはこの場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

近年ほど「心の時代」と云われる様になって久しくありません。駒澤大学も常に建学の理念であります「行学一如」にのっとり弛まない前進をしている中、大学を取りまく環境は、日々変化を余儀なくされております。

近年２１世紀プランのもと教育研究組織の改革、キャンパスの再構築、事務組織の改革、そしてそれを支える財政基盤の強化に取り組んでいた所でしたが世界的な金融経済状況の変化の影響も少なからず、受けている様ではありますが、この様なことに怯む事なく駒澤大学が発展する事を希望する所であります。

結びに、４０周年記念事業遂行に当たり関係各位の皆様方には多大なる御協力を頂いた事深謝申し上げ皆様方の御健勝と御多幸そして駒澤大学が駒澤会と共にさらなる発展を遂げます様願ってやみません。

駒澤大学
駒澤会

駒澤会の活動を学内外の皆様に紹介するため、また、いろいろな所にこのマークを使用することで、駒澤会を身近なところで知っていただきたく、平成２１年に誕生しました。

イデア・ノード株式会社、代表取締役社長の原田篤様の御厚意により作成・寄与されました。原田様の会社は、ＷＥＢ事業・ＡＤ事業などを手掛けています。昨年度より駒澤会だよりや開催通知等をお送りする封筒に使用しています。これから更にこのシンボルマークを効果的に活用し、駒澤会のＰＲに役立てていきたいと思います。

『駒澤会シンボルマーク』は、駒澤大学の発展、在校生への支援を目的とし、前進を続ける「駒澤会」ご父母の意志をイメージしてデザインされました。

同じ方向を見つめる横顔は大学支援と駒澤会の設立主旨を後世に伝える為の気持ちの結束を表しております。

また色使いでは、駒澤大学カラーの紫を基調色とし、４つの横顔それぞれに、最も色の濃い右端から順に、

１．駒澤会がこれまでに培ってきた伝統と、携わってきた方々の重み
２．現在の活動と成果
３．近い将来に向けてのビジョン
４．まだ見ぬ先の真っ白なパレット

このように、過去から未来に向けての襷リレーの意味を表しております。

≪駒澤大学駒澤会４０周年記念事業実行委員会≫

委員長　森屋正治
会　長　井上俊夫
副会長　赤堀菊絵　田中隆一
委　員　三宅哲也　青木米蔵　高見静子　三崎章子　久野文代　宮前享司
　　鈴木康元　荒井喜久子　菊地英昭　田邊隆子　三浦ひろ子

駒澤大学駒澤会創立４０周年記念誌

平成２３年１２月　発行
編集・発行　駒澤大学駒澤会４０周年記念事業実行委員会
〒１５４－８５２５　東京都世田谷区駒沢１－２３－１